

改訂2版の発行にあたって

本書は平成13年4月に「放射線基礎計測学」として最初に刊行され、その発行以来僅かの修正が何度か行われ今日まで続けてきました。しかし、最近では医療面での放射線診断・治療の分野で急速な進歩・発展が見られ、飛躍的向上をもたらしている。一方、それらと関連のある放射線計測の分野でも本書が発刊されて以来、既に18年を経過してその内容も時代にそぐわなくなった部分も生じており、今回新たな知見を取り入れ、特に「第6章 放射線量（率）の測定」、「第7章 放射線治療時の線量（分布）測定」の2章については大幅に修正すべく表題を「第6章 線量計測」、「第7章 放射線治療での線量計測」と改め、大々的に書き換えを行った。そして今後新たに進展するであろう陽子線、炭素線による水吸収線量計測についても若干触れてある。なお、本書は以下のような分担で執筆している。

第1章 放射線計測の基礎	三枝健二
第2章 放射線計測の理論	三枝健二, 入船寅二
第3章 放射線検出器の種類・構造および特性	三枝健二, 福士政広
第4章 測定値の取扱い	三枝健二, 福士政広
第5章 放射線の測定技術	中谷儀一郎, 三枝健二
第6章 線量計測	齋藤秀敏, 入船寅二
第7章 放射線治療での線量計測	齋藤秀敏
第8章 放射線防護関連機器による測定	福士政広

最後に、本書の出版にあたって多くの御尽力を賜った医療科学社の方々に対し、厚く御礼申し上げます。次第です。

令和元年7月
著者しるす